

Every single life matters

伊 澤 淳

令和5年4月1日付、信州大学学術研究院保健学系長を拝命いたしました。医学部保健学科長、地域保健推進センター長、ならびに本学大学院医学系研究科保健学専攻長を兼務いたします。略歴とともに、表明した所信に基づいてご挨拶を申し上げます。

私は平成6年に本学医学部医学科を卒業後、第一内科に入局して三井記念病院で臨床研修をしました。本学大学院医学研究科でマウス心移植モデルを用いた移植免疫の研究に取り組み、Bostonに3年間留学した後に、内科学第五教室（医学部附属病院循環器内科）で診療・研究・教育に従事しました。

平成28年4月に保健学科に着任後、シンガポール工科大学との国際交流協定を締結し、令和2年4月より副学科長（学科長補佐）として外部資金や科研費の獲得向上に取り組みました。地域との活動として、松本市健康づくり推進協議会に参画しており、また、本学医学部と松川村に続いて麻績村との地域連携協定を締結して、域学連携を推進して参りました。長野県教育委員会との連携による生活習慣病予防外来では、専門職チームにより親子の生活習慣病予防の取り組みを継続しています。

令和3年10月に中村宗一郎学長が就任し、学長・プロボスト室会議に参画しています。信州大学改革実行プラン「inGear」において、前医学部長の中山 淳先生（当時副学長）が掲げた3つのmethodのうち1つは、「健康寿命延伸を目指した地域保健の共創」であり、コロナ禍で実施した私たちの生活習慣病リモート予防外来が、持続可能な健康管理のためのヘルスプロモーションとして紹介されています。

以上の経験は、いずれも恩師による指導や関係者との連携や協力の賜物ですが、経験を活かして保健学科の発展に貢献し、母校の魅力をさらに高めていくために、次の3点を所信として表明いたしました。

1. 国内最高レベルの保健医療人の育成

長野県唯一の国立大学法人に存在する本学医学部は、我が国の保健医療の質を世界に誇るレベルで維持すること、そのための保健医療人を輩出することが使命であり、国内最高レベルの保健医療人の育成を目指すことを私の第一の目標に掲げます。実際に全国の基幹医療施設において保健学科の卒業生が活躍しています。長野県代表と言える卒業生を、日本代表に育てたいと考えています。目指す保健医療人のあり方を教職員と共有するとともに、指導者として教員の養成も重要です。本学高等教育研究センターと連携し、FDの充実や教育の内部質保証の取り組みを推進します。

2. 先進的な教育と研究による知の創造

2-1. 教育：顕著な少子化により大学入学者数は全国で減少しています。大学が選ばれる時代に、本学の魅力を高めるポイントは、大学が果たす本質的な役割である教育と研究の質を高めることだと考えます。令和4年度に、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と、教

育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）が再検討され、カリキュラム・マップが示されました。また、学修成果を可視化するディプロマ・サプリメントの発行が準備されるとともに、信大コンピテンシーが検討されています。これらを共有し、科目や教員間の連携を大切にします。学部教育に加えて大学院の充実、質の高い保健医療人の育成に不可欠であり、医学部附属病院と連携してリスクリングを推進します。特に看護学専攻では、保健師と助産師の教育課程の充実が検討されており、教職員とともにその準備を進めて参ります。

2-2. 研究：科研費獲得向上のための活動や、学位審査並びに大学院研究発表会等を通じて、保健学科には特色ある研究がいくつも存在することを認識しました。学会賞を受賞するなどの成果を積極的に発信するとともに、研究者相互の情報交流を通じてイノベーションや領域横断的な研究に展開するように、本学学術研究・産学官連携推進機構（SUIRLO）の担当URA並びに医工連携コーディネーターとともに研究支援を強化します。日本の科学技術や学術研究が、世界の後塵を押しつつある現状に危機感を持ち、あらゆる領域における研究推進の重要性と意義を伝え続けて参ります。

3. 長野県における地域保健の課題解決：医学部地域保健推進センターの役割

平成26年に設立された本学医学部地域保健推進センターは、地域住民を対象とした「健康講座」を信州医学振興会と共催しており、保健医療のトピックスを提供するとともに健康啓発に取り組んできました。本学の高い地域貢献度は、大学の魅力の一つとして評価されています。成果を広く社会に提供して社会の発展に寄与することは大学の使命であり、保健医療人が地域社会の構成員として、専門を活かして域学連携に貢献することには重要な意義があります。

地域保健の課題に対して、どのようなアプローチが適切でしょうか？諸外国よりも先進的な超高齢化と人口減少に加えて、気候変動やコロナ禍により価値観が刻一刻変化しています。個人の健康課題に対して一人ひとりに最適な処方が必要であるように、変化する地域のニーズや特性、実情に基づいて、その地域に最適な進路を選択していく必要があります。医学部地域保健推進センターが、これからの地域保健に貢献できることは何か？皆さん一人ひとりの叡智を結集して探索を始めます。

おわりに

現在の保健医療を担う私たちも、これからを担う学生も、そして私たち保健医療人が対象とする世界の全ての人々も、どの一人も大切な存在です。コロナウイルス感染症2019は刻一刻と変化しながら、保健医療のみならず社会のさまざまな側面に深刻なインパクトを与えました。未来予測が困難なパンデミックに加えて、環境問題や災害、戦争などの世界情勢を目の当たりにした私たちは、世界の一つひとつの全ての命が掛け替えのない存在であることを認識しています。Every single life matters です。

では、VUCA（Volatility 変動性、Uncertainty 不確実性、Complexity 複雑性、Ambiguity 曖昧性）の時代と言われて久しい現在、私たち保健医療人はいかにあるべきか、どのような人材、どのような総合力を目指すべきでしょうか？私は、一言で説明するならば、「自分自身または自分の最も大切な人を診て（見て）もらいたい存在」であると考えます。そのような保健医療人を、医学部・保健学科の全ての教職員の皆様とともに一致協力して育成するスタートに立つ決意といたします。

（信州大学学長補佐 信州大学医学部保健学科長）